

西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 (②セ05-10-5/5)

目 的

西アジア諸国、とくに内戦・紛争によって危機にさらされているアフガニスタン及びイラクの文化遺産の調査研究や文化遺産の保護・保存修復事業を通して、技術移転及び人材育成を図り、自国民の手による文化財保護事業の確立の支援を目指す。また、あわせて周辺地域（特に中央アジア、インド）の文化遺産の調査研究・保護への協力を実施する。

成 果

1. アフガニスタン（バーミヤーン）

ユネスコ文化遺産保存日本信託基金による「バーミヤーン遺跡の保護」事業と連携し、バーミヤーン遺跡の保存修復事業を実施するとともに、日本国内にてアフガニスタン人専門家の人材育成事業を行った。

1-1. バーミヤーン遺跡の保存修復事業：第10次ミッション（7月9日～7月30日）を実施し、東大仏龕の西側に隣接する石窟群の壁画の状態調査と応急的な保存修復処置や第8次ミッションまでの考古学調査で得られた考古遺物の整理などを行った。

1-2. アフガニスタン文化財専門家研修事業：アフガニスタン考古学研究所より研究員を3名（ユネスコ文化遺産保存日本信託基金による招聘者2名）招聘し、考古学研修を実施した。若手研究者を対象とした研修（8月2日～12月17日）と上級研究者を対象とした研修（9月27日～10月15日）を静岡県埋蔵文化財調査研究所や奈良文化財研究所等と連携して行った。

1-3. バーミヤーン遺跡保存のための専門家会議への出席：2011（平成23）年3月3、4日、フランスのバリで開催された第9回「Expert Working Group Meeting for the Preservation of the Safeguarding of the Cultural Landscape and Archaeological Remains of the Bamiyan Valley World Heritage Property, Afghanistan」に出席（山内和也、前田耕作、谷口陽子、ファビオ・コロンボ）。

1-4. 『アフガニスタン文化遺産調査資料集』の出版：アフガニスタン文化遺産調査資料集の概報第6巻『バーミヤーン遺跡保存事業概報—2009・2010年度（第9・10次ミッション）—』、同第5巻『バーミヤーン仏教石窟の建築構造およびその意匠と技法』。

1-5. 外部機関・団体との共同研究等：名古屋大学「ユーラシア大陸における文化遺産資料の自然科学的手法による年代学的研究」；名古屋大学への委託事業を通して、バーミヤーン遺跡などアジア各地の遺跡の出土遺物を対象に高精度の放射性炭素年代測定を実施し、考古・美術史研究の知見と総合して、遺跡の年代学的研究を行った。

2. イラク

イラク人文化財専門家を育成し、イラク人による文化財復興を支援する。本事業は、ユネスコ文化遺産保存日本信託基金による「バグダードにあるイラク国立博物館の保存修復室復興事業」と連携して実施した。

2-1. イラク文化財専門家研修事業：イラク国立博物館より3名（ユネスコ文化遺産保存日本信託基金による招聘者2名）の保存修復家を招聘し、9月22日から12月9日にかけて「文化財の保存修復および分析調査のために使用される機器に関する研修」、「金属製品の保存修復研修」、「木製品の保存修復研修」を実施した。

3. 西アジア周辺諸国における文化遺産の調査研究・保護への協力等

3-1. トルコ：カッパドキア石窟壁画の保存修復にむけた基礎調査；6月19日から6月29日にかけて、カッパドキアに点在する石窟の保存状態に関する基礎調査を行った。ユネスコ、トルコ共和国文化省、国際

②国際協力・交流等 Area13

保存修復専門家との間で、今後の保存管理計画および必要とされる人材育成に関する意見交換を行った。

- 3-2. タジキスタン：タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画断片の保存修復及び保存修復専門家の人材育成・技術移転；文化庁委託事業である文化遺産国際協力拠点交流事業と連携し、壁画断片の保存修復を行うとともに、中央アジア関係諸国、ロシア、中国より専門家を招聘し、意見・技術交換を目的としたワークショップを開催した。また、報告書『タジキスタン国立古代博物館所蔵壁画断片の保存修復—2009年度』、『タジキスタン科学アカデミー歴史・考古・民族研究所アーカイブ、カフカハ遺跡群出土壁画』、『カライ・カフカハ I, II 遺跡出土壁画資料集 写真編 2』を刊行した。
- 3-3. インド：アジャンター壁画の保存修復；文化庁委託事業である文化遺産国際協力拠点交流事業と連携して、インドのアジャンター仏教壁画の保存修復活動を実施した。壁画の保存状態記録を目的とした高精細写真撮影、自然科学的調査に基づく試験的なクリーニングなどを行った。また、『アジャンター 第2窟、第9窟壁画 ドキュメンテーションと状態調査』（日英）、『Indo-Japanese Project for the Conservation of Ajanta Paintings, 2008』を刊行した。
- 3-4. エジプト：JICA受託「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズ1）」にかかる国内支援業務。
- 3-5. アルメニア：文化遺産国際協力コンソーシアムの協力相手国調査と連携して、2月7日から13日にかけて、アルメニア文化省と関係機関の担当者と面談し、今後の協力事業の可能性について意見交換を行った。

4. 国際会議等への参加

- 4-1. 「International Scientific-theoretical Conference “Preservation of Historical and Cultural Heritage: Theory, Practice and Collecting”（2010（平成22）年10月12日、於タシュケント、ウズベキスタン、出席者：山内和也、前田耕作）。
- 4-2. 「International Research and Practice Conference “Eurasia Ancient and Medieval Urbanization: Origin, Development and Age of Almaty City”」（2010（平成22）年11月17日、於アルマティ、カザフスタン、出席者：山内和也）。

研究組織

- 清水真一、山内和也、朽津信明、有村誠、影山悦子、島津美子、邊牟木尚美、鈴木環、安倍雅史、中村寛（以上、文化遺産国際協力センター）、前田耕作、谷口陽子、松岡秋子、松田泰典、藤澤明、伏屋智美、末森薫、高林弘実、（以上、客員研究員）、杉山洋、森本晋、石村智、田代亜紀子、脇谷草一郎、田村朋美（以上、奈良文化財研究所）、中村俊夫（名古屋大学）、津村宏臣（同志社大学、客員研究員）、増田久美（増田絵画修復工房）、佐藤由季（絵画保存修復家）、岡田靖（東北芸術工科大学）、笹岡直美（立正大学）、田川新一郎（箭上文化財修復）、片岡太郎（東北大学）、ファビオ・コロンボ（絵画保存修復専門家）